

本の扉

6月号
2025. 6. 3

前橋東高校 図書委員会
3年1組・4組

新年度が始まり、あっという間に2か月が過ぎようとしています。自分の決めた目標に向かって、ここまで元気に頑張ってこられたでしょうか。梅雨の足音が近づき、体調を崩しやすい時期ですので、くれぐれも体調には気をつけましょう。「本の扉」では、間もなく訪れる雨の季節も楽しく過ごせるような、素敵なおととの出会いをこれからもたくさんご紹介していきます！今後ともどうぞよろしくお願いいたします！



『天界の戦い』

(著者:チャールズ・ウイリアムズ／出版社:扶桑社)

神様たちが住む、きらびやかな天界。そこで、光と闇の大きな戦いが始まろうとしています。宇宙の運命を決めるこの争いは、聖なる場所の秩序を揺るがし、すべてを巻き込んでいくんです。自分の信じる道を貫き、最後まで戦い抜いた者だけが、この終わらない戦いの本当の勝者になれるでしょう。壮大な物語の始まりです。



『山の王』

(著者:アンデシュ・デ・ラ・モツ／出版社:扶桑社)

人里離れた深山に住まう、畏怖すべき存在「山の王」。収穫祭の夜、彼が新たな供物を求めて山を下りる時、閉ざされた村の運命は静かに、しかし確実に変貌を遂げていく。人間と自然、そして人智を超えた存在との境界線を描く本作は、畏れと信仰、そして不可解な「異形」の真実を、深い筆致で紡ぎ出す。読み手を深遠な物語世界へと誘う、奥深い傑作です。



『とわの庭』

(著者:小川糸／出版社:新潮社)

ひとり親である母と幸せに暮らしていた、盲目の少女とわ。しかし、ある日突然母がいなくなってしまう…。母との間に明らかになる、悲しい事実と彼女を取り巻く過酷な環境。盲目でありながらどんな辛い状況であっても生きることを諦めなかった彼女に勇気をもらいます。「生きること」について考えさせられる悲しくも、温かい物語です。



『放課後の文章教室』

(著者:小手鞠るい／出版社:偕成社)

文章を書くのが苦手…と思っている方にぜひ読んで欲しい作品です。相手に伝わる文章の書き方を読者の質問に答える形でわかりやすく教えてくれます。文章を書くうえで意識すべきポイントが分かり、文章を書くことが楽しいと思わせてくれるような作品です。



『カーテンコール!』

(著者:加納朋子／出版社:新潮社)

閉校が決まった萌木女学園を舞台に、様々な理由で卒業できなかった生徒たちが卒業するために寮生活を送る物語。それぞれが目には見えない悩みを抱えていて、葛藤しながらも、互いに助け合い成長していく姿に勇気付けられ、登場人物の言葉や行動に多くの気づきを得ることができます。学生が主人公ということできっと共感できる部分も多いはずです。登場人物の個性あふれる読み応えのある一冊です。



『誰も死なないミステリーを君に』

(著者:井上悠宇／出版社:早川書房)

自殺、事故、他殺など、<寿命以外>の人の死の予兆である死線が見える女子大生と共に、そんな人々の死を回避するためあらゆる手をつくす主人公のミステリー小説。二人の心情や、人々の恐怖心が生き生きと描かれていて、物語に引き込まれるおすすめの一冊です！ 果たして人々の死線の原因となる犯人は誰なのか…。



『リワイルディング 生態学のラディカルな冒険』

(著者:ポール・ジェプソン／出版社:勁草書房)

狼の再導入？マンモスの復活？生態系の回復？

これは、環境保全活動「再野生化」の概念をプロジェクト例と共に紹介する一冊です。生態系の回復と、社会の変革を目指す「リワイルディング」とは何か？未来の地球を守るためにはどうすればいいのか？野生動物のプロジェクト例とともに考えてみましょう！





『かがみの孤城』

(著者:辻村 深月／出版社:ポプラ社)

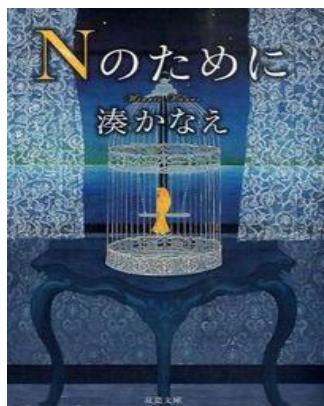
学校での居場所をなくし、閉じこもっていた主人公の”こころ”の目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡の中をくぐり抜けた先にあったのは、おとぎ話に出てくる城のような建物だった。そこには、似た境遇を持った”こころ”を含めた中学生7人が集まっていた。なぜこの7人がこの場所に集められたのか、全ての謎が解けたとき、あなたは驚きと感動に包まれるでしょう。



『か「」く「」し「」ご「」と「』

(著者:住野よる／出版社:新潮社)

高校生男女5人はみんなには隠している、少しだけ特別な力を持っている。これらの「かくしごと」は、彼らがクラスメイトの誰かに惹かれるきっかけとなり、時にお互いの思いが複雑に変化し、それぞれの心の葛藤を深めていく。青春の甘酸っぱさ、もどかしさ、そして誰にも明かせない「かくしごと」の存在が、私達の心を揺さぶる物語です。



『Nのために』

(著者:湊かなえ／出版社:双葉社)

東京都内の高級マンションの一室で、夫婦の変死体が見つかった。現場に居合わせたのは、20代の男女4人。それぞれの証言は驚くべき真実を明らかにしていく。そして彼らが「N」と出会ったとき、悲劇は起こる。どうして夫婦は死んだのか?それが思いを寄せる「N」のことなのか?切なさに満ちた、著者初の純愛ミステリーです。ぜひ一度読んでほしい作品です。



■貸出統計(4月1日～5月30日)

	1組	2組	3組	4組	5組	計
1年	23	83	48	82	132	368
2年	39	9	22	2	5	77
3年	17	8	16	3	0	44
職員						30
					合計	519